

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 御浜町	対談項目1 津波シミュレーション 映像の作成		<p>みえ防災・減災センターの協力の下、県が公表した被害想定データを活用し、理論上最大クラスの津波が来襲した場合の河川の遡上等も含めて七里御浜海岸における国道42号線を越えるシミュレーション映像を作成頂きたい。</p>	<p>津波シミュレーション映像の作成は専門業者に外注せざるを得ず、沿岸市町ごとに作る必要が生じますので予算的に難しいのが実情です。</p> <p>県が実施した地震被害想定調査においては、人が避難行動を取るのが困難となる「津波浸水深30cm到達予測時間分布図」を作成しています。</p> <p>ぜひこの分布図を啓発に活用いただくようお願いします。</p> <p>なお、県としての映像の作成は困難ですが、今回の被害想定調査の成果物として、津波シミュレーション映像の作成も可能な基礎データを受け取っていますので、町独自で映像を作成する場合には、必要なデータは提供させていただきます。</p>
2 御浜町	対談項目2 海岸及び河川堤防の強化による津波被害の減災について	1 海岸浸食が進む七里御浜の無堤防区間の解消と遊歩道改修等について	<p>現在整備中の萩内海岸堤防の早期完成と北側(熊野市側)への延長を早期にお願いしたい。</p>	<p>萩内海岸は緊急度の高い区間として整備を進めてきたところであり、現在約640mのうち約460mが完成しています。残りの180mについては林野庁と保安林解除に向けた協議が必要であり、平成25年度に協議が完了した約50mについて平成26年6月より工事に着手しています。残る130mについても早期の保安林解除の協議完了を目指し、引き続き、整備に努めます。</p> <p>熊野市側への延長については、他の事業区間の進捗状況を考慮しながら着手について検討していきます。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
御浜町	対談項目2 海岸及び河川堤防の強化による津波被害の減災について	1 海岸浸食が進む七里御浜の無堤防区間の解消と遊歩道改修等について	新阿田和橋以南の海岸(紀宝町側)への堤防新設をお願いしたい。	新阿田和橋以南の山地地区海岸約1.4kmは、背後地地盤高が比較的高いことから堤防が整備されていませんが、海浜の浸食状況、背後地の利用状況等、今後の状況の変化を踏まえ、事業化について検討していきます。
			御浜町役場前から道の駅ピネ付近までの遊歩道が浸食により被害が生じており、早急に改修をお願いしたい。	平成25年の台風により被災した遊歩道の復旧については、大幅に浸食され原型復旧が困難な約250m間は復旧を行わず熊野古道(浜街道)を通行していただき、残りの約750mを原型復旧する方針で三重森林監督署にもおおむね了解を得たところです。今後は詳細な測量を実施し復旧計画を定め、復旧工事に着手し、今年度内の開通に向けて取り組めます。
		2 県管理の主要河川の河口付近の河川堤防の耐震化と嵩上等について	尾呂志川河口付近の背後地を保護するため、河川堤防の嵩上等対策をお願いしたい。	河川管理施設の耐震対策は、堤防の脆弱箇所対策と河口部の水門、樋門等の耐震補強を優先して取り組んでいます。平成25年度の点検結果では脆弱箇所は確認されていません。引き続き施設の状況を見ながら必要な対策を検討します。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 御浜町	対談項目2 海岸及び河川堤防の強化による津波被害の減災について	2 県管理の主要 3 河川の河口付近の河川堤防の耐震化と嵩上等について	市木川左岸堤防水漏れ並びに耐震化等の改修をお願いしたい。	当該箇所については平成25年度に堆積土砂の掘削と合わせて樹木伐採等を行い、今年度は堤防の補修工事に着手する予定です。 耐震対策は平成26年度は市木川防潮水門の耐震照査を行います。今後必要に応じて耐震補強工事を行う予定です。
			老朽化している志原川扉門の整備改良をお願いしたい。	志原川樋門の改良には河川整備計画に位置付ける必要があり、現在整備計画の策定作業を進めています。 志原川の今後の整備手順については沿川の状況を勘案し検討します。
			河川のしゅんせつ工事をお願いしたい。	紀伊半島大水害により河川等に堆積した土砂については、平成25年度までに2.9万m ³ を撤去しました。平成26年度は「箇所選定のしくみ」により選定した志原川ほか3河川において0.4万m ³ を撤去する予定です。 残りについても緊急度の高い箇所より計画的に進めていきます。
7 8				

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
9 御浜町	対談項目3 柑橘産業の振興について		地域の実情に応じた生産振興支援、県産品のより積極的なPR等、支援をお願いしたい。	<p>県農業研究所の紀南果樹研究室では柑橘農家の経営安定化に向け高品質・高収益が見込める柑橘新品種の開発を進めています。</p> <p>新品種については国の果樹経営支援対策事業を活用して産地への導入を促進します。</p> <p>今後も産地が策定した果樹産地構造改革計画に基づき、「果樹経営支援対策事業」を活用して、新品種や需要の見込める優良品種への更新を進めていきます。</p>
10	南部地域活性化基金事業による担い手対策			<p>平成24年度から「三重南紀元気なみかんの里創生プロジェクト協議会」が実施する就業希望者向けの基盤整備や情報発信の取り組みに対し、三重県南部地域活性化基金を活用して支援を行っています。</p> <p>今後も町と連携して、南部地域の活性化に向けた取組みを進めていきます。</p>
11	担い手対策			<p>国の「青年就農給付金」と県の「みえの就農サポートリーダー制度」を活用し、新規就農者の確保・育成に向けた取組みを進めています。</p> <p>引き続き、地域農業改良普及センターにおいて町の取組みをサポートさせていただきます。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
12 御浜町	対談項目3 柑橘産業の振興について	タイ王国へのみかん輸出		新たな販路の開拓に向け、タイ王国へみかんを輸出する取組を推進しています。今後も、輸出園地の拡大に向け検疫対応の技術指導などに取り組んでまいります。
13		マルドリ栽培の推進		平成25年度から団地型マルチドリップ栽培技術の導入を進めています。今後も実証展示ほ場の設置や地域農業改良普及センターにおける現地指導等を通じ、産地の取り組みを支援していきます。
14		選果場施設整備		国の「強い農業づくり交付金」を活用し、高品質果実の選別や腐敗果の除去が可能なセンサーを搭載した専科システムの導入を進めています。平成26年度には生産者団体が導入を予定しており、計画書の策定にあたっての助言などを行っているところです。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
15 御浜町	対談項目3 柑橘産業の振興について	県産品のPR		<p>「三重テラス」では御浜町の多くの商品を取り扱うとともに、レストランでも御浜町産の100パーセントみかんジュースなどを提供しており、今年は熊野古道世界遺産登録10周年記念として店舗入り口正面に東紀州の産品をそろえたコーナーを設置してPRを行っています。</p> <p>この他にも、イオンマレーシアにおける三重県フェアにおいても、貴町の農家が商談会に参加いただき、柑橘のジュースの出品が予定されていますので、しっかりと出展していただくよう農家を支援していきたいと考えています。</p>
16 御浜町	対談項目4 道路網の整備について		<p>近畿自動車道紀勢線(新宮熊野間)が早期に事業化されるようお願いしたい。</p>	<p>東紀州が一体となって取り組んでいただいております。県としても早期事業化に向けて、しっかりと取り組んでいきます。また、道路部局も予算のパイをしっかりと確保するために努めていきたいので、地域からも声を上げていただきたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
17 御浜町	対談項目4 道路網の整備について		<p>主要地方道御浜紀和線、柿原地区から中立地区約2km、西原地区から金堀地区約1.5kmの早期完成をお願いしたい。</p>	<p>西原地区から金堀地区までの区間については平成22年度にバイパス事業に着手し、今年度は御浜町が27年度の調査完了を目指して実施している地籍調査区間を除いた約0.5km区間の用地測量を進めていく予定です。</p> <p>柿原地区から中立地区までの区間につきましては現在事業中の西原地区から金堀地区までの区間の進捗業況等も見ながら、御浜町と協議、調整を行い検討していきたいと考えています。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
18 御浜町	対談項目5 紀南病院における医師確保について		<p>当地域は泌尿器科、神経内科、皮膚科の医師が非常勤であり、予約制で診療を行っていますがニーズに応えきれていないので、県と三重大学で設置した「三重県地域医療支援センター」の中で常勤医の配置について検討していただきたい。</p>	<p>県では、義務年限期間中にある自治医科大学卒業医師やキャリアサポート制度を活用中の医師をへき地の医療機関等に派遣しており、平成26年度は県内の派遣医療機関の中で最多となる9名の自治医科大学卒業の医師を紀南病院に対し派遣しています。しかしながら、平成27年度に派遣可能となる義務年限内医師は、減少が見込まれることから、紀南病院におかれましても独自の医師確保対策を引き続きお願いいたします。</p> <p>平成24年5月に設置した三重県地域医療支援センターにおいて、若手医師のキャリア支援と医師不足病院の医師確保支援を目的として、内科、外科等の基本診療領域ごとに、へき地等医師不足の地域を含む県内複数医療機関をローテーションしながら専門医資格を取得できる後期臨床研修プログラムを三重大学や関係医療機関と連携して作成し、紀南病院も各専門医のプログラムの対象病院として参画をいただいているところです。このため、多くの後期研修医が紀南病院を選択するよう、これまで取り組みまれている病院の魅力づくりをさらに進めていただきますようお願いいたします。</p> <p>県は支援センタープログラムの活用促進を図るため医師修学資金の返還免除の要件について新たに支援センタープログラムに基づき研修する8年間勤務コースを加える条例改正を行ったところです。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
				<p>多くの若手医師に支援センタープログラムを活用いただき、安心して県内でキャリアアップをしてもらうとともに、紀南病院を含む医師確保支援にもつなげるよう取り組みます。</p>
19 御浜町	追加項目1 三重テラスの活用について		<p>小さな市町では単独で県外等で町産品をPRすることは難しい。このため、町としても三重テラスを活用させていただいた。</p>	<p>県が予め設定した三重テラスの売り上げ目標には届いていないが、御浜町から激励をいただいたので、これからも頑張っていきます。</p>